

第4回右京区基本計画策定委員会 摘録

- 日時：平成22年6月21日（月） 午前10時～
- 場所：右京区役所5階 大会議室
- 出席委員：土井座長・神吉副座長・石田委員・岩澤委員・石川委員・奥田委員・坂口委員
高岡委員・高屋委員・中川委員・中沼委員・永橋委員・新妻委員・林委員
松井委員・宮崎委員・森委員・山下委員・藤田顧問
- 欠席委員：大西委員・久保委員・原委員
- 事務局：高溝区民部長・宮崎総務課長・森まちづくり推進課長・山口京北出張所長
土居総務課担当課長補佐・木下総務課担当・梶原総務課担当
朝倉京都市まちづくりアドバイザー・西原京都市まちづくりアドバイザー
松尾地域計画建築研究所計画部次長・石井地域計画建築研究所技術参与

1 開会

2 右京区基本計画素案について 資料説明

資料1（右京区基本計画素案概要・意見提出用紙）

資料2（右京区基本計画素案）

3 パブリックコメントの実施について

●座長 まず、各部会長の方々から、部会のお話をどのように反映されたかということをお知らせいただき、その後に、委員の皆様からご意見をいただきたい。

部会長補足説明

『豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会』

●部会長 この概要版の中では、将来像①の「豊かな自然と歴史文化を活かしたまちづくり」というテーマと、その下の取組テーマの中に一応の集約を見ている。

部会では歴史や文化や自然環境などの地域の資源を継承しつつ、まだ知られていない魅力も多いので、今後一層、保全も含めた利活用と魅力の発信等の取り組みについての話があった。

概要版では「右京らしい生活」や「右京らしいライフスタイル」という表現が少し繰り返しに見えがちだが、文化や自然を活かすという意味もあり、地産地消など、農産物を有効に地域で消費することも含めて、「このような取り上げ方ができるのではないか」ということが表現できれば有難い。

『地域活動と安心安全のまちづくり部会』

●部会長 1点目に、部会の大きな将来像については、「自立して暮らせるまちづくり」

とあるように「自立」という言葉が使われているが、我々の部会で大事にしてきたことを文言の中に入れることができたと思う。「自立」が単に一人で頑張るという意味ではなく、一人ひとり弱けれども、互いに助け合うことで、その人らしく、大人も子どもも障がいのある無しに関係なく、あるいは高齢の方も、結果として生き生きと暮らせるという哲学を我々の部会は大切にしてきたということである。2点目は、リーディングプロジェクトやこれからの取り組みについて、まだ抽象的な表現に留まっているので、イメージを具体化していきたい。3点目は、三つの将来像は並列でありながら相互補完的な関係にある。支え合い助けあっているためにも、楽しく歩けるまちでなければならないし、その地域の資源や産業が上手く組み合っていかなければならない。このように三つのテーマは相互につながりあっていると思う。

『魅力ある都市環境のまちづくり部会』

●**部会長** 部会では交通の話が多く出ており、将来像は「楽しく歩けるまち・右京」というテーマに集約されているが、今後10年を考えた時に、歩くことが大事だというのが基本となる。その次に、地域において幹線道路をどうつくるかということ。そして自転車も走りやすいような空間をつくることも大事だという意見もあった。ただ、その辺りは十分に反映できておらず、やや項目の羅列になっているようなところがある。その点は、素案を基に今後さらに具体的な話をしていきたい。右京区が目指す将来像①②③については、それぞれ相互補完関係にあり、この三つを矢印で結ぶような形にした方がよいと思う。つまり、楽しく歩けるまちを実現するためには、人々が健康で支え合う関係がなければならないし、同時に歩く環境としては自然環境も非常に大事になるので、単に歩けるまちとして歩道をつくるだけではなく、それを取り巻く人々の関係、社会の関係、自然の関係があって初めて楽しく歩けるまちが実現できると思う。

6 意見交換

●**委員** 「モビリティマネジメント」や「スプロール」等、横文字が多くなっている。概要版で「区民の意見募集」となっている、一方で「パブリックコメント」となっていると、それぞれ解釈が異なると思うので、わかりやすくした方がよい。

●**座長** 「リーディングプロジェクト」とはと言えばよいか。

●**委員** 「先導的」等、いろいろな意味があると思う。漢字で長々と表記するのも良くないと思うが、簡単に英語で表現するとわからなくなってしまう。どのようにわかりやすくするかということを基本に進めるべきだ。

●**委員** 全体的に、今回の素案は抽象的過ぎるのではないか。「豊かな自然・文化」や「楽しく歩けるまち」とはどの辺りなのか、もう少し物事をはっきりと言った方がよい。先程の横文字の問題と同様に、文章だけではわかりにくいので、絵や写真も加えるような形をとった方がよい。

●委員 周りの環境を見ると、次々と新しく変わっている反面、住民はますます高齢化している。住民の高齢化と地域に入って来るいろいろな産業や店などとのバランスが大切で、今ここで踏ん張らなければ、とんでもないまちになってしまうのではないかと日々生活している中での実感である。地域をもう少し広げて、皆で考えられる仕組みづくりが、大事であり、その仕組みをどう動かしていくかということを考えていきたい。

●委員 最近では自転車が歩道を走っていて高齢者が歩きにくいということを特に感じる。だからと言って、便利になりすぎて右京らしさが消えていくのも残念。

●委員 概要版のⅡやⅣの表現で、例えば、「右京区の特徴と課題」の中の「豊かな自然環境に恵まれた右京区」という文章は、課題である以上、どのようにしていくかというイメージが浮かばなければ読み流されてしまう。どのような意図で「特徴と課題」が書かれたのか、「豊かな自然環境に恵まれた右京区」だからどうなのかということが伝わらない。「豊かな自然環境に恵まれた右京区」だからこそ「守っていこう」というような方向性の言葉や、話し合った思いを込めなければ、読んでいただいた区民の気持ちに届かない。

●委員 右京区は他の行政区と比べると大変に住みやすい良いまちだと思っている。高齢化は進んでいるが、町内の人の高齢者に対する見守りもできていて、高齢者に気になる兆候があれば、気付いた人が民生委員や老人福祉の人たちのところへ連絡するようになっていく。素晴らしい計画ができると思うので、是非とも“絵に描いた餅”にならないように、検証をしていかなければならない。

●委員 アンケートに対して、これではわかりにくいという意見があるが、やはり、私たちがこの1年間議論してきた魂が込められていると思うので、素案を読んでほしいという気持ちがある。「右京区が目指す将来像」について質問する時は、「素案のP10にあります」と書かれていたら、P10を読んでみようという気になるのではないかな。

●委員 横文字の問題について、日常的に使っている言葉ならわかるが、熟語になっているような言葉はわかりにくいと思う。したがって、アンケートの中にそのような言葉が出てくると、若い人にはよいが、年配者にはわかりにくいので、その点を改めてもらえれば有難い。

●委員 概要版の「ご意見をお聞かせください」という部分に関しては、私もわかりやすい表現に同感である。たとえば1人で生活している高齢者の方は、家に鍵をかけて外に出ない人が多いので、そういう方に「助けて」というキャッチフレーズで、いつも皆で「お助けします」というものがあると、高齢者も「助けてもらえる」という気持ちを持ってもらえるのではないかなと思う。素案に「世代を超えて人々が地域とつながる」と書かれているように、地域でつながって、そしてまた次の世代につなげていくことも必要ではないかなと思う。

●委員 将来像①で「豊かな自然・文化を受け継ぐまち・右京」とあるが、「豊かな自然」というと、どうしても嵐山や京北などの北の方をイメージするし、「楽しく歩けるまち・右京」と言ってもそういう場所をイメージする。どうしても、右京区の場合は、ある程度はどこかに焦点を当てたような部分がある。

●委員 将来像にある「楽しく歩くまち」「豊かな自然」「支えあう」右京区としては、高齢者のことを本当に考えていかなければならないと思う。高齢者の一人ひとりが安心安全に住んで「このまちに住んで良かった」と言えるように、地域も含めて考えていかなければならないと思う。これから出される基本計画も、抽象的なことばかりでは区民にわかりにくいので、具体的に噛み砕いてわかりやすい提案をしていかなければならないのではないか。

●委員 素案のP12に「本計画における『まちづくり』とは」という文章があるが、これは一番大事なところだと思う。基本計画ができて、10年後はどうなるかということについては、そこには行政と団体と個人があり、基本計画の姿勢の中でも「暮らしの価値観を変えてみよう」「地域ごとに特徴ある方向性を考えよう」「よい所をほめることから始めよう」と、個人がすること、団体がすること、行政がすることがミクスチャーされているので、「一体私は何をすれば良いのか」ということになりかねない。個人として何をするかということの説明も必要だが、まず、「まちづくりとはこうする」「10年後の右京区はこうなる」ということを出して、パブリックコメントを出してもらおうという形で進めればよいのではないか。

●委員 高齢化の問題に視点が向いてしまいがちになるが、もちろん、高齢者にやさしいまちは皆にやさしいまちなのだが、やはり、若い人、子どもたちが活性化しないと未来につながっていかないと思う。したがって、小学生は無理だと思うが、できれば中学生、高校生に概要版を読んでもらい、「右京区はこういうことをしている」と知ってほしいし、興味を持ってほしいと思う。

●委員 将来像で「豊かな自然・文化を受け継ぐまち」は適切だと思う。また、御池通りはどうするのか、162号線の交差点はどうするのか、それが上手くできなければ他の方法はないか等々、10年後に見た時に、少しずつでも実現に近づけられるようなことをもう少し具体的に挙げていきたい。

●委員 概要版はやや具体性に欠けるような気もする。確かに、具体的に書くと、いろいろな方面からの意見が出て難しいところがあるかもしれないが、できることから書けないものかと思う。5年先のスパン、10年先のスパンで、今計画されている、あるいはできつつある事業は何か、できそうな可能性のある事業は何かというある程度の具体性を出した方がよいと思う。

●委員 将来像が三つある中で、互いに補完関係にあるということをもう少し図式化して、

どのような関係があるかというつながりを見せると、もっとわかりやすい説明になると思う。それから、区民の皆様にお知らせする方法として、ポスターやホームページや市民しんぶんだけでなく、他にもっと周知する方法はないか、知らせるだけでなく、参加してもらえる方法なども皆で考えていきたい。

<まとめ>

●**座長** パブリックコメントはできるだけ早く実施し、多くの方からご意見をいただきたいのだが、本当は作っていく過程からできるだけ区民の方に参加してもらいたいということで、ホームページと区役所に置くだけではなく、回覧もしてもらおう予定だと聞いている。例えば、学区の皆様から説明していただくとか、あるいは教育委員会の方から小学校に対して「こういうことをしている」と概要版を見てもらうとか、可能ならば、お願いできると有難い。それから、パブリックコメントに関連して、「リーディングプロジェクト」という表現の評判が悪いのだが、「プロジェクト」という表現は変えられないと思う、それは理解していただきたい。「リーディング」という言葉を、例えば、「初めに取り組む」等、別の言い方に変えられないかと思う。

もう一つ重要なのは、「意見提出用紙」でなぜ意見を聞くのかということ。その理由をきちんと書かなければ、回答する人は「何の意見を出すのか」ということがわかりにくくなってしまう。こちらにもきちんとした趣旨を伝えるということである。

●**座長** キャッチコピーは公募するというのでいいだろうか。(異議なし) 委員の皆様にも考えてもらい、素晴らしいと心打つようなキャッチコピーができれば喜ばしいと思う。